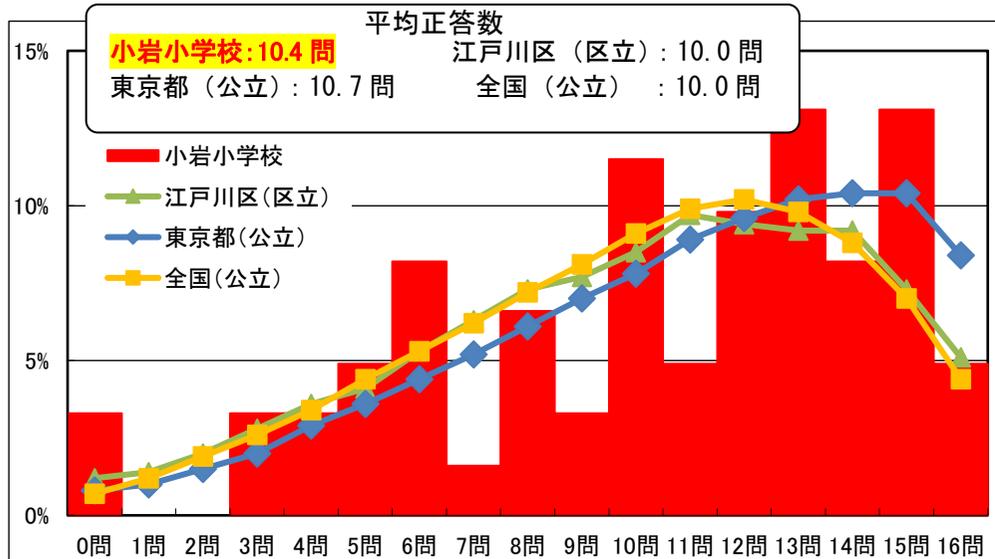


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 小岩小学校

正答数分布



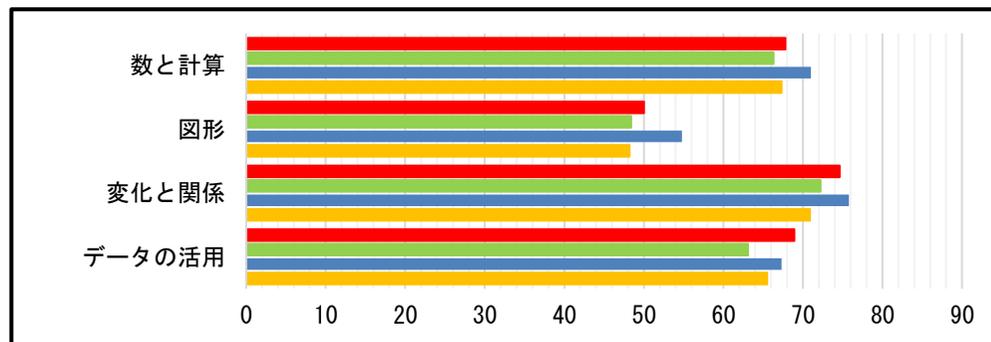
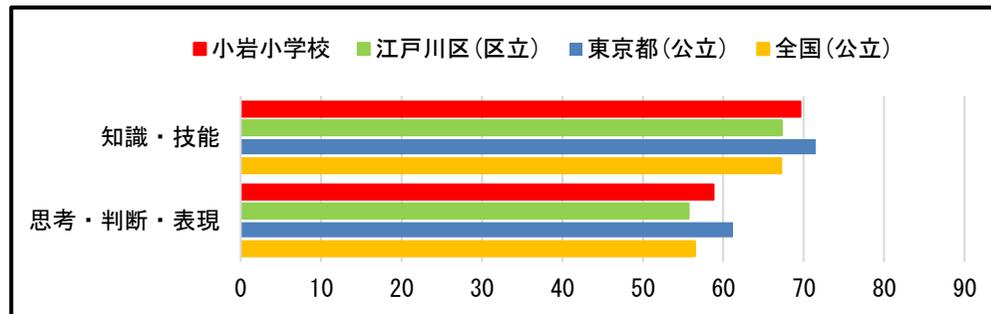
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

算数	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
小岩小学校	26.2	27.8	21.4	21.6
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

<分析>

平均正答率 65%は、都より 2%低く、区より 3%高い。AB層約 54%は都より低く、全国・区よりは高い。「データの活用」の正答率は都や区、全国より高く、「変化と関係」も 7割5分と高い。「図形」の正答率は 50%と低い。

<授業改善>

全体的に正答率の向上が見られるので、引き続き、基礎基本を繰り返して指導し、児童同士で説明し合い理解を深める学習や、問題解決的な学習に基づく指導を継続する。「日常生活を解釈し既習事項を使って計算し、条件に合うかを考える」問題や「テープを切って開いてできた形に関する問題」の正答率が低く、具体的な生活場面を示す問題や図形の理解を深める学習を積み重ねていく。

【平均正答率の差】

小岩小学校	65%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	2ポイント